

# 自分に合う理想の「留学」を考える

～アメリカ在住の現役教授と3人の留学中医師による体験談～

**2022年2月25日(金) 21時～ ZOOM開催**

一見ハードルが高く思える「留学」。しかし実際はその意志を持ってしっかりと準備をしていけば機会は巡ってきます。ただ一口に留学といっても、留学する地域や研究室により、その楽しさ、困難、研究生活は様々。今回は泌尿器学教室から留学した4名の先生がそれぞれの「留学」を語ります。様々な留学のカタチを知りたい、比較したいという皆さんにピッタリな講演です！



講師：宮本浩教授

本学泌尿器科学教室出身で、現在ロチェスター大学病理部教授であられる宮本浩先生は、日本で泌尿器科医として勤務の後、米国で9年間の研究生活を経て病理医になりました。

今回はその経緯や現在の病理医としての仕事内容、さらには、研究室を構えるに至るまでの研究費取得にまつわる苦労、日本人を含む外国人研究員を受け入れる際に望むことなどについてもお話いただきます。

貯金はどのくらい必要？

留学するなら、都会？  
地方都市？

留学前に論文など実績はどのくらい必要？

大学院で研究経験を積んでから？  
研究経験のないまま臨床医から？

留学前の経験・留学先が異なる先生方が皆さんの疑問にお答えします！

安井将人 先生  
(講演ファシリテーター)



臨床医として活躍

ニューヨーク州  
University of Rochester  
研究内容：  
「膀胱癌におけるステロイドホルモンレセプターの役割の解明」

留学前

黒田晋之介 先生



臨床医として活躍

オハイオ州  
Cleveland Clinic  
研究内容：  
「男性不妊患者における精液中ストレスマーカの開発」

留学前

大竹慎二 先生



大学院で3年間研究生活

カリフォルニア州  
U of California Los Angeles(UCLA)  
研究内容：  
「希少腎癌の発癌モデル構築と発癌メカニズムの解明」

留学前

裏面へ

## 宮本浩先生ご略歴

現在 米国ニューヨーク州ロチェスター大学病理学部門教授

1988年 横浜市立大学医学部卒業。横浜市立病院等で泌尿器科医として活躍

1996年 ポスドク研究のため、渡米

2013年～2016年 ジョーンズ・ホプキンス大学病理部・泌尿器科准教授

2001年～ロチェスター大学病理部にて、助教授、准教授、教授を歴任

2019年より現職。



お申込み:先にQRコードよりご登録ください。

前日までにZoomURLをお送りします。

お問合せ:医学教育推進課医学国際化等担当(田澤・胡子)

045-352-7968

[ycumedgl@yokohama-cu.ac.jp](mailto:ycumedgl@yokohama-cu.ac.jp)



申込期限:2022年2月18日(金)